

2014 年度(平成 26 年度)

事業報告書
(第 4 事業年度)

自 2014 年 1 月 1 日
至 2014 年 12 月 31 日



公益社団法人 企業メセナ協議会
Association for Corporate Support of the Arts

目 次

I. 法人の概況	2
1. 公益社団法人設立年月日	
2. 定款に定める目的	
3. 定款に定める事業内容	
4. 公益法人の認定等に関する事項	
5. 会員の状況	
6. 役員等	
II. 組織運営の概況	4
1. 会議等の開催状況	
2. 部会・ワーキンググループによる事業・活動の推進	
III. 事業概要	6
公1:企業による芸術・文化支援および芸術・文化振興による社会創造の促進と普及	
1-1. 提言・提案活動	8
1-2. 調査研究事業	8
1-3. 認定・顕彰事業	10
1-4. 情報発信	12
1) ウェブサイト運営	
2) 広報活動	
3) 出版、ライブラリー	
1-5. 普及促進	15
1) 国際会議、メセナフォーラム等	
2) メセナネットワーク	
3) 地域メセナ交流・推進	
4) 国際交流	
1-6. コーディネート、協力	19
公2:芸術・文化活動等への寄付を促す助成に関する事業	
2-1. 助成認定制度	25
2-2. 震災復興支援事業「東日本大震災 芸術文化による復興支援ファンド」...	26
2-3. 「2021 芸術・文化による社会創造ファンド」.....	27

I. 法人の概況

1. 公益社団法人設立年月日

2011年1月6日

※ 1990年4月20日設立の旧社団法人は、移行認定に伴い2011年1月5日に解散登記を行った。

2. 定款に定める目的

この法人は、企業をはじめ芸術文化に関わる団体が参加、協働し、芸術文化振興のための環境づくりと基盤整備に努め、創造的で活力にあふれた社会、多様性を尊重する豊かな社会の実現に寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

この法人は、先の目的を達成するために、次の公益目的事業を行う。

- (1) 企業による芸術文化支援の促進と普及
- (2) 芸術文化支援に関する情報の収集・発信および仲介・協力
- (3) 芸術文化支援に関する調査・研究および文化政策に関する提言・提案
- (4) 国内外の芸術文化振興に関する団体・機関との交流・連携および企業相互の協力・連携による芸術文化支援の推進
- (5) 企業等による芸術文化支援活動の顕彰
- (6) 芸術文化活動への寄付を促す助成に関する事業
- (7) その他公益目的を達成するために必要な事業

この法人は、公益目的事業の推進に資するための事業を必要に応じ行う。

4. 公益法人の認定等に関する事項

当該事業年度において、認定法の規定により内閣府から受けた勧告、または命令はなかった。なお2014年10月29日に内閣府公益認定等委員会による立入検査を受け、公益法人としてガバナンスに優れ、財務・会計が適正に行なわれており、公益目的事業についても十全な取り組みであるとの評価を受けた。

5. 会員の状況

正会員:136社・団体 準会員:34社・団体/14名 (2014年12月10日現在)

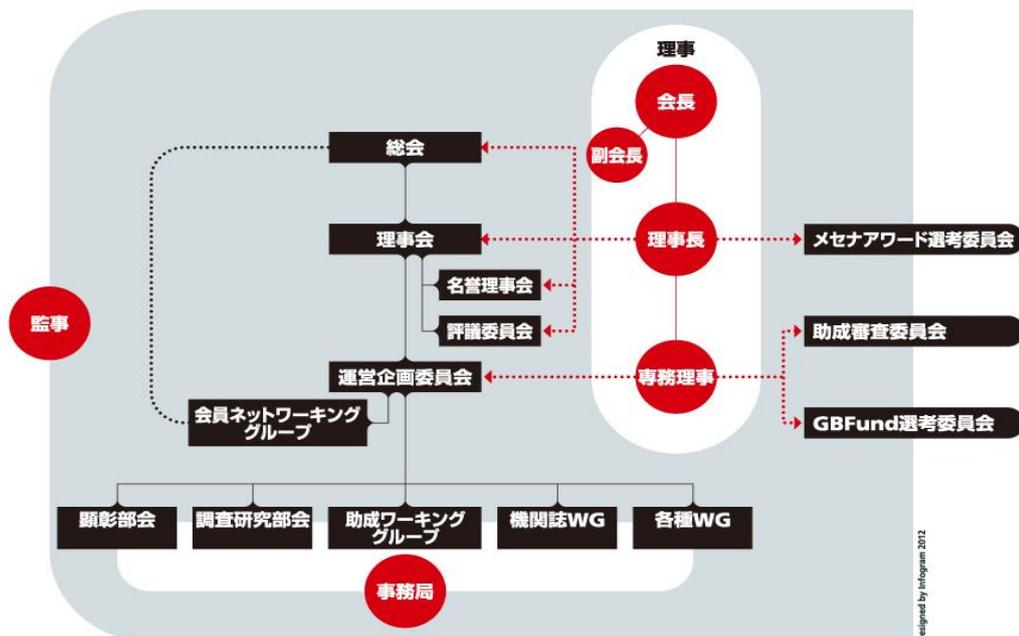
6. 役員等

2014年12月10日現在

名誉会長	福原義春	株式会社資生堂 名誉会長
顧問	福地茂雄	アサヒグループホールディングス株式会社 相談役
会長	高嶋達佳	株式会社電通 会長
副会長	秋山耿太郎	株式会社朝日新聞社 顧問
理事長	尾崎元規	花王株式会社 顧問
専務理事	加藤種男	公益社団法人企業メセナ協議会 専務理事
理事	一橋 忠	株式会社資生堂 企業文化部 150年史編纂プロジェクト編集長
	片山正夫	公益財団法人セゾン文化財団 常務理事
	河島伸子	同志社大学経済学部 教授
	清水義昭	トヨタ自動車株式会社社会貢献推進部 文化活動グループ グループ長 担当課長
	福川伸次	一般財団法人地球産業文化研究所 顧問
	舟橋香樹	大日本印刷株式会社 ICC本部 本部長
	星 久人	株式会社ベネッセホールディングス 特別顧問
	南 直哉	東京電力株式会社 元社長
	吉本光宏	株式会社ニッセイ基礎研究所 研究理事
監事	岩田武司	弁護士
	太下義之	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 芸術・文化政策センター主席研究員
名誉理事	池田弘一	アサヒグループホールディングス株式会社 相談役
	北島義俊	大日本印刷株式会社 代表取締役社長
	古賀信行	野村ホールディングス株式会社 取締役会長
	小林一生	日本生命保険相互会社 取締役専務執行役員
	斎藤勝利	第一生命保険株式会社 代表取締役会長
	佐々木 元	日本電気株式会社 名誉顧問
	佐治信忠	サントリーホールディングス株式会社 代表取締役会長
	佐藤正敏	株式会社損害保険ジャパン 相談役
	張 富士夫	トヨタ自動車株式会社 名誉会長
	塚本能交	株式会社ワコールホールディングス 代表取締役社長
	平田保雄	株式会社日本経済新聞社 取締役会長
福武總一郎	株式会社ベネッセホールディングス 最高顧問	
評議員	足立直樹	凸版印刷株式会社 代表取締役会長
	上田卓司	株式会社フジタ 代表取締役社長執行役員
	竹安 聡	パナソニック株式会社 役員 ブランドコミュニケーション本部 本部長
	田中稔三	キヤノン株式会社 代表取締役副社長 CFO
	戸田裕一	株式会社博報堂 代表取締役社長
	前田晃伸	株式会社みずほフィナンシャルグループ 名誉顧問
	矢崎和彦	株式会社フェリシモ 代表取締役社長

II. 組織運営の概況

公益社団法人 企業メセナ協議会組織図



1. 会議等の開催状況

【定時社員総会】

- 3月3日 : 2013年度事業報告ならびに収支決算／次期役員選任／会員規程改定

【通常理事会】

- 2月13日 : 2013年度事業報告ならびに収支決算案／次期役員案／会員規程の改定案／名誉理事就任・辞任／運営企画委員会規程改定／助成事業に関する規程の改定／役員報酬／定時社員総会の招集
- 12月2日 : 2015年度事業計画ならびに収支予算／特定資産取り崩し時期変更

【臨時理事会】

- 3月3日 : 代表理事・執行理事選定／理事長及び会長、副会長、専務理事選定／名誉理事・評議員・名誉会長・顧問就任／新会員承認
- 6月4日 : 新会員承認／評議員交代／周年事業積立金取り崩し／「This is MECENAT」審査委員会規程／「2021 芸術・文化による社会創造ファンド」設立／助成認定制度改定／寄付金取扱規程および助成事業関連規程の改定
- 7/17、9/1、9/30 : (決議の省略による) 新会員承認

【役員・運営企画委員 合同会議】

- 6月4日 : 各社メセナ活動の最新情報／部会・ワーキンググループの活動報告・案内
- 10月8日 : 25周年事業について／助成事業のあり方について

【運営企画委員会】

- 6/4の役員合同会議や9/30の会員交流会とあわせて会議を行った他、11/10はオリンピック文化プログラムについての勉強会を設けた。2/13、12/2の理事会にはオブザーバーとして出席した。

2. 部会・ワーキンググループによる事業・活動の推進

【◎:部会長／グループリーダー、○:サブリーダー *2014/12/30 現在】

【調査研究部会】 (6回:1/15、2/24、5/21、7/24、9/19、10/27) *会議数、催しは除く
企業・企業財団によるメセナ活動の実態や傾向、意識等を調査・分析し、メセナを担う実務担当者に情報を提供するとともに広く社会に紹介。メセナに関する研究の提案、方向性を検討する。

◎吉村真也(TOA)、○山本真由美(トヨタ自動車)、阿部奈菜子(サントリーホールディングス)、
金井 圭(損害保険ジャパン日本興亜)、吉本光宏(ニッセイ基礎研究所)、山口大輔(パナソニック)

【認定・顕彰部会】 (5回:1/31、6/30、7/30、8/5、12/5)

メセナに取り組む企業・企業財団等を励まし、社会からの関心を高めることを目的として、百社百様のメセナを認定する「This is MECENAT」について議論し、顕彰事業「メセナアワード」の運営を担う。

◎岡田恭子(資生堂)、原田卓也(アサヒビール)、岡 秀男(中外製薬)、中澤宏昭(電通)、
西澤信二(東京急行電鉄)、清水義昭(トヨタ自動車)、森実尚子(日本電気)

【情報発信部会】 (5回:1/30、4/4、5/27、7/2、8/26)

協議会の情報発信の方向性や役割について議論し、具体的な手法について検討する。WEB を中心に多彩なメディアの活用やプレス対応、出版物企画などについても提案する。

高瀬祐生子(資生堂)、川北 英(竹中工務店)、舟橋香樹(大日本印刷)、宮本 尚(大日本印刷)、
坂村道子(フェリシモ)、小栗和子(ホテルオークラ東京)、中村可奈子(三菱地所)

【交流部会】 (4回:3/18、5/22、7/14、11/11)

文化振興プラットフォームの実現に向けて、内外の文化機関やアート NPO、行政等とどのような交流・連携をはかるべきかを検討し、交流事業(助成、コーディネート等)の方向性を提案する。

◎嶋田美名子(花王芸術・科学財団)、市村作知雄(アートネットワーク・ジャパン)、
片山正夫(セゾン文化財団)、石綿祐子(東京都歴史文化財団)、高萩 宏(東京芸術劇場)、
杉村玄一郎(凸版印刷)、山本真由美(トヨタ自動車)、大野マリ(日本オラクル)、川廷昌弘(博報堂)

【会員ネットワーキンググループ】 (3回:3/18、8/6、10/21)

会員相互の交流・連携強化を目的とし、情報交換・相談・研鑽等を恒常的に行える場を設ける。各事業に関連づけた会合を開き、相互のネットワークづくりに貢献する。

◎宗村 泉(凸版印刷)、○菅沼比呂志(リクルートホールディングス)、宮田昌尚(朝日新聞社)、
岡部三知代(竹中工務店)、美馬直輝(ハイジ・インターフェイス)、内倉真紀子(白寿生科学研究所)、
安西正史(パソナ)、星 久人(ベネッセホールディングス)、天坊真彦(リソー教育)

【入会促進プロジェクトチーム】 (5/16)

組織強化をはかるべく、入会促進のための手法やアプローチ対象を検討。2012年10月の発足以来、約90社・団体に働きかけ、28社・団体が入会した。当年でPTは役割を終えるものとする。

◎一橋 忠(資生堂)、○舟橋香樹(大日本印刷)、宮田昌尚(朝日新聞社)、
星 久人(ベネッセホールディングス)

III. 事業概要

幅広い文化観の提案を通じた社会創造を ～文化振興プラットフォームとして「交流」「発信」を強化～

2014年度は、協議会設立25周年の前年にあたることから、「Corporate MECENAT Year of Japan 2014-15」として「交流」と「発信」に注力して事業を展開した。また長年にわたり協議会を牽引してきた福原義春会長、箱島信一副会長、福地茂雄理事長が退任することとなり、新たなトップの舵取りで四半世紀の節目を迎える機を捉えて、新規の制度設計や情報発信の強化、国際ネットワークの形成に取り組んだ。結果、「メセナ＝芸術・文化振興による社会創造」をこれまで以上に謳い、「新生メセナ」を強く印象づける一年になった。

■ 多彩なメセナを可視化、発信。2020年に向けた新制度を設計

- 全国の多彩なメセナ活動を可視化し紹介すべく、新たな認定制度「This is MECENAT」を導入。今後、顕彰事業「メセナアワード」との連動に向けて、本制度の定着と拡大に努めている。
- WEBサイトのリニューアルに取り組み、協議会事業だけでなく、要望の多かった会員各社のメセナ活動をトップページに掲載した。この結果、「メセナ」のポータルサイトとしてアクセス数を大きく伸ばしている。
- 次の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、2020年以降の日本の文化創造に資すべく「2021芸術・文化による社会創造ファンド(2021 Arts Fund)」を新設。地域文化の振興、文化を通じた国際交流、人材育成を重点に、さまざまな目的に応じたファンドの形成を目指す。同時に、オリンピックを機とするメセナの展開についても、会員を中心に研究と意見交換を進めている。

■ 国内外のネットワークを拡大し、文化による社会創造の議論を推進

- 協議会25周年を機に、企業メセナの世界ネットワークを強化すべく、国際会議を企画。特に、協議会がこれまで提唱してきた「文化資本による創造経済」について内外の認識と議論を深めるため、「文化は資本だー創造経済とは何か」をテーマとした。
- 10月には東京セッションとして、内外のクリエイティブリーダーとビジネスリーダー等が登壇し、コミュニティに働きかけるアートの方、文化による社会創造、創造経済について議論を深めた。内外のメセナ組織や文化機関との情報交換もはかられ、あらためて関係を構築しネットワークを広げることができた。
- 助成事業では、従来、要望のあったマッチング機能を果たすべく、WEBを活用した情報公開とオンラインでの作業システム化に着手し、より多くの支援者に働きかける仕組みを整えた。
- 調査研究事業では、メセナの事例研究を深めるべく「メセナ・アソシエイト」制度を導入。若手研究者らが独自の観点から、企業メセナを多角的に掘り下げている。
- 準会員として個人を受入れるよう会員制度を改訂、メセナ応援団の充実をめざしている。

上述の主な取り組みは、全国の企業および会員各社が取り組んでいる「芸術・文化振興による社会創造」の実態に則して展開したものであり、さまざまな領域で活動する文化の担い手とのネットワークにより実現したものである。新規事業や新制度についてはいっそう周知に励み、企業メセナや文化振興に携わる方々の一助となるよう、さらなる拡充に努める必要がある。総じて 2014 年度は、企業メセナの推進から、より大きな文化振興プラットフォームを目指す転換点に立ち、その仕組みづくりの端緒についたところと概観する。

【2014 年度スケジュール】

月	主な事業・活動	理事会・部会等
1月		調査研究①
		情報発信①
	賀詞交歓会・GBFund 報告会(1/24)	認定顕彰①
2月		理事会(2/13)
		調査研究②
3月	特別講演会(3/3) プレス① 助成審査(3/4)	総会・理事会(3/3)
	TIM 募集(3/10⇒5/16) note(3/15)	交流① NW①
	調査報告会(3/20) プレス②	
4月	アワード募集(4/1⇒5/30)	情報発信②
	記者懇談会(4/10)	
5月		入会促進 PT
	GBF 選考(5/19)	調査研究③
	助成メセナフレンズ導入(5/26) プレス③	交流② 情報発信③
6月	2021ArtsFund 設立(6/4)	理事会・運営企画委(6/4)
	フォーラム①(6/12) 助成審会(6/16)	
	アサヒ SRAP(6/14⇒7/31)	認定顕彰②
7月		TIM 審査(7/17) 情報発信④
	調査アンケート(7/15⇒8/29)	交流③
	メセナ美術部(7/18) WEB リニューアル(7/23)	調査研究④ 認定顕彰③
8月	プレス④	認定顕彰④ NW②
	フォーラム③(8/28-30) 下村大臣面談(8/26)	情報発信⑤
9月	フォーラム④(9/11) アワード選考(9/16・18)	
	調査アソシエイト導入(9/19)	
	会員交流会(9/30) プレス⑤ 助成・2021 審査(9/24)	調査研究⑤
10月	ネット TAM リニューアル(10/1) プレス⑥	理事会・運営企画委(10/8)
	国際会議(10/23-24)	NW③ 調査研究⑥
11月	東京都国際会議・NW(11/7-14)	運営企画委員会(11/10)
		GBF 選考(11/17) 交流④
	アワード贈呈式(11/21) クアラルンプール招聘	
12月	美術部(12/5-6) プレス⑦ 助成・2021 審査(12/4)	理事会(12/2)
	NW 勉強会(12/17) プレス⑧	認定顕彰⑤
	ミニフォーラム(12/24)	

公1: 企業による芸術・文化支援および芸術・文化振興による社会創造の促進と普及

1-1. 提言・提案活動

■「文化による社会創造、2020年に向けた取り組み」を発表

- 新体制発足に伴う記者懇談会(4/10)にあわせて、「〈ニュー・コンパクト〉の継承発展 文化による社会創造、2020年に向けた取り組み」と題するメッセージを発表。これまでの企業メセナの成果と2020年に向けた重点的な取り組み、企業メセナの数値目標を示した。
- 重点的な取り組みとして、①地域経済と地域社会の再生、②国際的な文化ネットワークの形成、③文化振興と文化による社会創造の政策と基盤整備の3つを挙げた。これらの重点施策は当年度の事業を推進するうえでも意図しており、「2021 Arts Fund」の重点対象や国際会議におけるテーマ設定に反映した。
- 数値目標として、企業・企業財団によるメセナ活動費の総額を2016年に1,000億円超と定めた。それに向けて当年度より調査手法を検討し、すでに目標に近づくメセナ活動費総額の結果を得ることができている。

■2020年に向けた意見交換、研究会を推進

- 8月26日、下村文部科学大臣、西川副大臣と尾崎理事長、加藤専務理事が会談。2020年に向け、官民それぞれの役割や連携について意見を交わした。逸早く「2021 Arts Fund」を設立したことに対し、下村大臣より謝意が表された。
- 英国ブリティッシュ・カウンシル理事長のバーノン・エリス氏が来日するにあたり、高嶋会長、加藤専務理事、清水理事、岡田部会長ほか数名での懇話会を行うほか(10/16)、カルチャー・リーダーシップの人材育成プログラムを手掛けるスー・ホイル氏と会員との面談の機会を設けた(11/18)。また運営企画委員会での勉強会や(11/10)、会員有志からなる研究会準備会も発足しており、オリンピックを機とする文化事業の取り組みについて意見交換を進めている。

1-2. 調査研究事業

■企業・企業財団の実態に迫る「メセナ活動実態調査」を実施

- 企業のメセナ活動の全体像をこれまで以上に把握するべく、さまざまなデータ収集を実施した。企業・企業財団のメセナ活動費総額については、アンケート回答のデータだけでなく、協議会が把握するデータや公開資料を加えた結果、956億2,697万円となった。事例研究についても認定・顕彰事業等で把握している活動を加えるなど、企業メセナの多彩な取り組み、実態に迫ることができた。
- 企業調査については、確度の高い回答を得るべく調査対象を精査、新たにメセナ実施企業を加えながらも、アンケート送付先を前年度の4,546件から1,612件へと絞り込んだ。結果、420社から回答を得(回答率26%)、そのうちメセナ実施企業は333社(前年度:397社)であった。
- 企業財団への調査はこれまで隔年で行っていたが、昨年より企業調査とあわせて結果を公表したこともあり、本年も前年と同様に財団へのアンケート調査を行った。277団体を調査対象とし、189団体より回答を得た。

- 12月3日に「2014年度メセナ活動実態調査」結果についてのプレスリリースを発行。「企業が社会創造を促進、芸術文化の基盤整備に多彩な手法を開発」として、日本の企業メセナの多様性を訴える内容とした。『日刊自動車新聞』、『音楽の友』に掲載された。
- アンケートへの回答を簡便にし、集計と分析に伴う作業を効率化するため、事務局内でのセルフアンケートシステムを導入、あわせて負担の軽減にもつながった。

■事例研究を進めるべく、「メセナ・アソシエイト」を導入

- 企業メセナの質的な理解を深め、さらに多くの企業メセナ担当者から期待されている理論化を進めるための研究体制の強化を図りつつある。まず、企業メセナの量的な側面とともに、質的な成果を掘り下げる事例研究に取り組むため、「メセナ・アソシエイト」の制度を導入。メセナに関心ある若手研究者の育成も目標に公募したところ、全国から21名の応募があり、シンクタンクのコンサルタントや音楽評論家、アートマネジメント・コンサルタントといった専門性の高い4名のアソシエイトを迎えることになった。
- メセナ・アソシエイトは調査研究部会に出席し、実態調査の分析について部会メンバーと意見交換するほかライブラリーミーティング等を重ね、それぞれの関心事や専門性からテーマを設けて研究を進めている。今後、ヒアリング調査なども行い、レポートを作成し発表する予定である。
- なお本調査研究事業は、文化庁の「平成26年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」に採択された(事業受託:7,071,000円)。

■調査結果を読み解く報告会を開催

- 2013年度「メセナ活動実態調査」の結果報告とともに、部会メンバーが出演する座談会形式の報告会を開催。「現場が読む！メセナの最前線」として、調査の分析から見てきたメセナ全体の動向や、それぞれの現場で得た成果、共通する課題などについて語り合った。
- 報告会で公表した調査結果のデータ資料はWEBに掲載するとともに、機関誌『メセナ note』80号に収録した。基礎的なデータとともに、特に注目した点として東北3県におけるメセナ活動実施件数の変化と、時事設問とした国外でのメセナ活動実施の状況を詳細に示した。あわせて吉村部会長による寄稿では、メセナ活動を通じた被災地支援の結果、企業がつながる「地域」が拡大していると指摘。また吉本理事の寄稿では、文化支援の日本モデルを本調査が明らかにしてきたことが言及された。

「現場が読む！メセナの最前線

～2013年度メセナ活動実態調査から～

- 実施日:2014年3月20日(木)13:00～16:00
- 会場:日本財団ビル2階大会議室(東京都港区)
- 出演:
吉村真也(TOA)、酒井香世子(損保ジャパン)、
山本真由美(トヨタ自動車)、
吉本光宏(ニッセイ基礎研究所*モデレーター)
- 参加者:23名



1-3. 認定・顕彰事業

■百社百様のメセナ活動に光をあてるメセナ認定「This is MECENAT」スタート

- 多彩なメセナ活動を可視化し、広く発信していくことを目的として、新たなメセナ認定制度「This is MECENAT」(以下「TIM」)を設けた。協議会トップ交代と25周年を迎えるタイミングで新制度を導入し、幅広い企業メセナの発信に新機軸を拓いた。
- 3月10日から5月16日までを募集期間とし、2014年度中に行う予定のメセナ活動を募り、7月の審査会で応募のあった109件の活動を認定。認定を証する「メセナマーク」(通称Mマーク)を配布して広報媒体への掲出を促した。あわせてWEB上の「メセナアーカイブ」に登録し、「これぞメセナ」という多彩な活動を紹介している。
- TIMの認定活動では、チラシ等の印刷物やWEBなどにMマークを活用するほか、催し会場でのパネルや記録集への掲出なども見られた。メセナ認定を受けたことが地元メディアで取り上げられるなどの成果もあった。
- アーカイブサイトは協議会本サイトのトップページやSNSなどとも連動させ、相乗的な情報発信をはかっている。今後はアーカイブサイトの英訳を進め、バイリンガルでTIMの情報を配信し、蓄積していく。
- 本制度は顕彰事業メセナアワードと連動させることを前提としており、TIM2014の応募活動が「メセナアワード2015」の選考対象候補となる。TIM導入にあたり、本年はメセナアワードと応募時期が重なり多少の混乱は否めなかったが、2015年度からの一体化に向け、効率的な運営ができるよう、選考委員の選定や応募システムの連動を進めているところである。

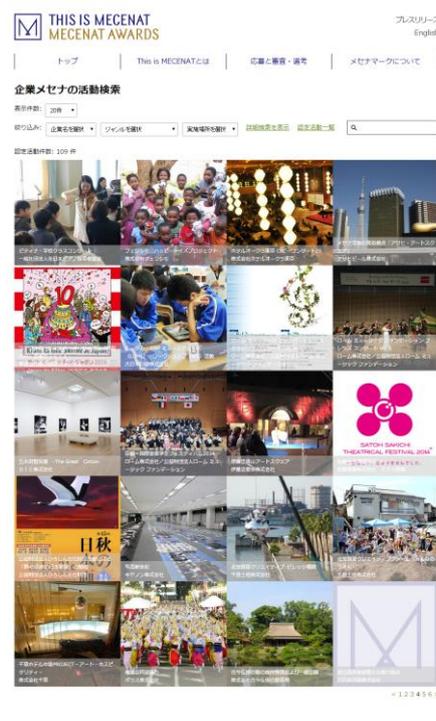


「これぞメセナ」のシンボル
「メセナマーク」

【This is MECENAT 2014 審査委員】

- 原島 博 (東京大学名誉教授) * 審査委員長
赤池 学 (ユニバーサルデザイン総合研究所所長)
伊東信宏 (音楽学者、大阪大学大学院文学研究科教授)
金沢百枝 (美術史家、東海大学教授)
河島伸子 (同志社大学教授、
文化経済学会<日本>会長)
中村陽一 (立教大学21世紀社会デザイン研究科教授)
*以上五十音順、敬称略
尾崎元規 (企業メセナ協議会理事長)

多彩なメセナ活動を紹介する
「メセナアーカイブ」



■「メセナアワード 2014」では幅広い文化の取り組みを顕彰

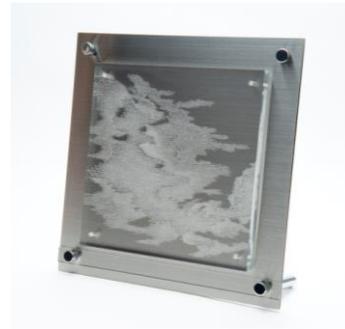
- 24 回目となる「メセナアワード 2014」は、4 月 1 日から 5 月末までの募集期間に、全国から 102 件（94 社・団体）の自薦・他薦による応募があった。募集に際しては認定・顕彰部会の提案を反映し、応募用紙を改定するとともに記載方法の見本を WEB で示した。記載事項が整理されボリュームが減ったことにより、記載しやすく、ポイントが伝わりやすいと好評を得た。
- 応募案件については約 3 ヶ月間にわたり事務局が調査・取材を行い、部会による 2 度の検討会議を経て選考会を行った。9 月中旬に一次・二次選考会を開催し、メセナ大賞 1 件、優秀賞 5 件、特別賞として文化庁長官賞（文化庁後援）1 件を選出、優秀賞には評価ポイントを賞名に反映させ、選考委員が考案した。
- 今回の受賞活動は規模や手法、地域も多彩であり、文化を礎とする豊かな暮らしにフォーカスすることもできた。10 月 9 日にプレスリリースを発行するとともに、記者発表会を実施。受賞活動の多彩さを反映して、主要メディアだけでなく地方紙や業界紙、専門誌など 24 名の記者が参加した。受賞各社のメセナ担当者も出席し、直接取材することで、受賞者のコメントを交えた記事掲載につながった。
- 贈呈式および記念レセプションを 11 月 21 日、スパイラルホール（港区・表参道）にて開催。竹中工務店代表取締役会長 CEO の竹中統一氏、トヨタ自動車代表取締役社長の豊田章男氏をはじめ各社トップが登壇し、受賞スピーチを行った。青柳文化庁長官、選考委員が出席したほか、協議会会員や受賞活動のパートナーである文化関係者など約 310 名が集い、プレス関係者 30 名超の参加を得て盛況な式典となった。
- 贈呈式の開催にあわせ、受賞活動の詳細を紹介するリーフレットを制作、メセナ大賞受賞のトップインタビュー、選考委員のコメント、応募活動一覧をまとめた。WEB とも連動させ、贈呈式の後には受賞各社代表のスピーチや選考評などをレポートとして掲載した。
- 贈呈式の開催ならびにトロフィー制作にあたっては、ワコール／ワコールアートセンターの協力を得た。記念レセプションでは、アサヒビール、キリンホールディングス、サントリーホールディングスよりドリンクをご恵贈いただいた。

【メセナ アワード 2014 受賞活動および受賞企業・団体】

メセナ大賞	公益財団法人ギャラリーエークウッド “建築・愉しむ”ギャラリーエークウッドの運営
川の手文化賞	アサヒビール株式会社 すみだ川アートプロジェクト 2013:江戸を遊ぶ―「ないまぜや！」鶴屋南北
華のアート賞	株式会社資生堂 「椿会」の開催と資生堂ギャラリー、資生堂アートハウスの活動
子どもクリエイティブ賞	株式会社電通 「広告小学校」プロジェクト
ケニアで読みま賞	日本工営株式会社 日本ケニア友好ソンドウ・ミリウ公共図書館での読書文化普及のための支援活動
紅型めんそ〜れ賞	株式会社琉球銀行 「りゅうぎん紅型デザインコンテスト」による紅型振興と次世代育成活動
特別賞： 文化庁長官賞	トヨタ自動車株式会社 トヨタ青少年オーケストラキャンプ



メセナアワード 2014 贈呈式



大賞・優秀賞オリジナルトロフィー

【メセナ アワード 2014 選考委員】

- 赤池 学 (ユニバーサルデザイン総合研究所所長)
- 河島伸子 (同志社大学教授、文化経済学会<日本>会長)
- 榎木野衣 (美術批評、多摩美術大学教授)
- 福岡伸一 (生物学者、青山学院大学教授、ロックフェラー大学客員教授)
- 松岡正剛 (編集工学研究所所長)
- 茂手木潔子 (日本音楽研究) *以上五十音順、敬称略
- 尾崎元規 (企業メセナ協議会理事長)

1-4. 情報発信

1) ウェブサイト運営

■協議会 WEB をリニューアル、会員のメセナ活動を日々発信

- 協議会の情報発信の方針について情報発信部会で検討を重ね、①会員・協議会の活動発信、②国際発信を2つの柱として事業を推進。トップ交代のタイミングで協議会パンフレットを構成から見直し、「文化振興プラットフォーム」を強調する内容として和英で作成した。
- WEB についてはビジュアルのインパクトを重視したトップページを構築するとともに、協議会事業だけでなく「会員のメセナ活動」を発信するサイトへとコンセプトを定め、7月23日にリニューアルオープンした。会員のメセナ活動を紹介する「アート&カルチャー」のページを毎週更新すべく情報提供を呼びかけ、12月末までに154件・48社の活動を掲載した。
- 発信力を高めるため、Facebook をほぼ毎日の頻度で更新し、ブログの数を増やし、メルマガの配信回数を月1回から毎週にした。Facebook ページの「いいね！」は849件から1,565件とほぼ倍増。メルマガは配信対象を会員限定から一般に広げ(約830件⇒約1,890件)、毎号会員の活動を取り上げてWEBサイトとひもづけた。
- WEB リニューアル後、アクセス数は格段に伸び、2014年度のページビューは32万4,544件と、前年度に比べて6倍以上となっている。

	セッション数	ユーザー数	ページビュー
2014年	78,323	55,326	324,544
2013年	29,441	23,737	57,718

※セッション数:サイトの訪問回数、ユーザー数:サイトの訪問者数、ページビュー:サイト内ページ閲覧数

【スタッフによるブログ掲出数:20件】

2月	<ul style="list-style-type: none"> ・「日仏文化協力 90 周年」(坂本) ・2014:90eme anniversaire des echanges culturels entre le Japon et la France (坂本) ・The 6th 21ST Century Museum Summit at Kanagawa, JAPAN (中村) ・オーストラリア機関「Creative Partnerships Australia」最新情報(中村) ・第12回 キラキラっとアートコンクール 表彰式(阿部) ・2月19日(水) タネ Cafe 開催されました！沖縄の話、日本文化と社会の話、「せり鍋」つき！(松木)
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・福原義春会長・箱島信一副会長・福地茂雄理事長“感謝の会”(松木) ・損保ジャパン東郷青児美術館 FACE2014 へ行ってきました！(寺岡) ・国際交流基金 地球市民賞受賞式(中村)
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・企業メセナ協議会 新体制発足に伴う記者懇談会(坂本) ・The Press Meeting with New Chairman and President (中村) ・政策提言『「ニュー・コンパクト」の継承発展 文化による社会創造、2020年に向けた取り組み』発表(坂本)
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・個人会員ご紹介(坂本) ・メセナ美術部レポート！ 印刷博物館訪問記(松木) ・「M(メセナ)」マークも登場！ホテルオークラ東京「秘蔵の名品 アートコレクション展」—今年20回目の開催にて累計入場者数50万人に—(阿部・末澤・坂本) ・下村博文・文部科学大臣と尾崎元規・企業メセナ協議会理事長の会談(末澤)
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・企業メセナ協議会 新体制発足に伴う記者懇談会(坂本) ・「新しい祭りが生まれる——プロジェクト FUKUSHIMA!／三陸国際芸術祭」(荻原) ・第3回メセナフォーラム「熊本・鹿児島フィールド視察」レポート(松木・岩田) ・第4回メセナフォーラム「文化資本による経営」レポート(末澤)
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回メセナフォーラム「地域の伝統芸能と文化」レポート(中野)

2) 広報活動

■新体制発足、This is MECENAT や国際会議などアピール

- ・新体制発足に伴う記者懇談会を4月10日に開催した。高嶋会長、尾崎理事長より新任の抱負を述べ、協議会25周年の節目を経た今後のメセナの方針について尾崎理事長が語り、新設した「This is MECENAT」制度や国際会議の概要について案内した。続いて、「2020年に向けたメセナの取り組み」について加藤専務理事より発表した(報道関係者12名参加)。日経新聞「文化往来」に「メセナ協議会、新体制で文化支援を拡大」(5/3)、同紙に「This is MECENAT に56団体」(8/14)として掲載された。
- ・「メセナアワード 2014」では受賞活動決定のプレスリリースを発行すると同時に、記者発表会を実施(10/9)。受賞各社のメセナ担当者が出席し、記者からの質問に直接答える機会を設けたことで、後の取材と記事掲載に結びついた。また昨年に続き、贈呈式終了後には、メセナ大賞受賞企業の担当者が朝日新聞の「ひと」欄に掲載された(12/29)。
- ・各事業の成果として配信するプレスリリースを、前年より2本多い8本発行した。また新体制交代に伴う取材が数件あったほか、福地顧問が日経新聞「私の履歴書」の連載で(6/1～)、企業メセナ協議会理事長としての取り組みを言及された(6/30)。
- ・国際会議に記者を招聘するなど、年間を通して協議会の活動情報を供給した結果、年末に日経新聞より尾崎理事長へのインタビュー申し入れがあり、記事掲載につながった(12/26)。

【プレスリリースによる情報発信】

No.	配信日	リリースタイトル
1	3/4	新体制発足 新規事業「This is MECENAT」をスタート
2	3/31	「メセナ アワード2014」幅広いメセナ活動を募集～企業・団体による芸術・文化を通じた社会創造の取り組みを表彰～
3	5/30	80年ぶりの再開となる江名諏訪神社文化伝統保存会「三匹獅子舞」を助成～東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド「GBFund」 第10回助成活動を決定～
4	8/7	第一回「This is MECENAT」決定！～震災復興から中小企業の連携まで、多彩なメセナ109活動を認定～
5	9/25	～クリエイティブリーダーとビジネスリーダーによる国際会議～「ー文化は資本だー 創造経済とは何か」開催
6	10/9	「メセナアワード2014」受賞活動決定 豊かな暮らしをつくる多彩なメセナ活動が受賞 沖縄やケニアなど地域的な広がりも顕著
7	12/3	企業が社会創造を促進 芸術文化の基盤整備に多彩な手法を開発 2014年度「メセナ活動実態調査」結果
8	12/9	郷土芸能を世界に発信！オリンピックを見据えた「東北と世界を結ぶ祭博」へ助成～東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド「GBFund」 第11回助成活動を決定～

【主な取材対応】

取材日	媒体	内容	掲載日
3/24	読売新聞	社会へ「お返し」多様な形 企業メセナ協・福原会長が退任	4/3
4/10	日経新聞	メセナ協議会、新体制で文化支援を拡大（「文化往来」）	5/3
7/14	朝日新聞	「福原義春の道しるべをさがして」（『be』）	9/27
12/10	日経新聞	企業の文化支援支えるメセナ協議会理事長	12/26

【メディア掲載数】

	メセナ・文化政策	企業	協議会	アワード	TI M	調査研究	助成	その他	合計
2014年	45	54	34	81	5	2	5	1	227件
2013年	36	—	12	70	—	0	29	3	150件

3) 出版、ライブラリー

■機関誌『メセナ note』最終号を発行

- 協議会機関誌『メセナ note』を80号で休刊。「新たなメセナの展開に向けて」を特集に、巻頭言は「リーダーたちのメッセージ」としたほか、情報発信部会メンバーによる座談会、2013年度メセナ活動実態調査の報告、寄稿、コラムなどで構成した。協議会会員や年間購読者、公的機関等への贈呈のほか、調査報告会(3/20)でも活用した。

80号(3/15発行) 特集: 新たなメセナの展開に向けて	
巻頭言:	リーダーたちのメッセージ
アート考/メセナ考	高嶋達佳(協議会会長)、尾崎元規(理事長)、福原義春(名誉会長)、福地茂雄(顧問)
特集	座談会 メセナを広く発信する 進行役: 舟橋香樹(大日本印刷) パネリスト: 酒井香世子(損保ジャパン)、吉川公二(フェリスモ)、小栗和子(ホテルオークラ東京)
レポート	2013年度企業・企財団のメセナ活動実態調査報告
特別寄稿	吉村真也(TOA[株]広報室、協議会調査研究部会長) 逆境がメセナを強くする 調査結果に見る「つながる場・東北」
特別寄稿	吉本光宏(ニッセイ基礎研究所首席研究員、協議会理事) 文化支援の日本モデルが明らかに——シンクタンク機能を発揮するメセ協の調査研究
連載コラム	玉岡かおる(小説家) ④ 進化していくメセナの未来

【協賛】 アサヒビール、板室観光ホテル大黒屋、サントリーホールディングス、資生堂、損害保険ジャパン、第一生命保険、大日本印刷、トヨタ自動車、富士ゼロックス、ベネッセホールディングス、ワコールホールディングス

■25周年記念出版の企画に着手

- 2015年の協議会25周年に向けて、記念出版物の制作を検討。情報発信部会や複数の出版社と方向性と内容について協議し、これまでの企業メセナの成果を読み物として伝えるような「売れる書籍」を発行すべく企画を進めている。
- 既刊出版物については、販売対象を『メセナを知る本』(2010年)、『企業メセナへのアプローチガイド』(2007年)の2種に限り、『メセナ note』や報告書等については、WEB掲載とライブラリーでの閲覧で対応することとした。それにより在庫管理・販売業務の軽減につながった。

■メセナ情報の提供とライブラリー運営

- 協議会事務所内のライブラリーでは、企業メセナ・社会貢献、CSR活動および文化政策、アートマネジメント等に関する情報収集活動を行い、レファレンス対応も積極的に行った。

【ライブラリー概要】

公開時間	月曜～金曜日、11:00～17:30(要電話予約)
開架資料	<ul style="list-style-type: none"> • 和書・報告書: 1,457冊(企業と文化・社会貢献、文化行政・文化政策、アートマネジメント・文化経済学、公益法人・NPO・文化税制、名簿・年鑑・一覧) • CSR報告書: 約250冊 • 洋書: 562冊(14カ国の文化政策、アートマネジメント関連) • 企業・企業財団の資料: 約1,060企業・団体分 • 新聞・雑誌掲載記事(1989年12月～2014年12月) • 定期刊行物: 行政、芸術団体、研究機関、NPO、他
閉架資料	<ul style="list-style-type: none"> • 映像・音声資料: 265点(主催セミナー(1998-2001年)、メセナアワード贈呈式(~2008年)他)
年間利用者数	12名(大学、企業、文化団体等)

1-5. 普及促進

1) 国際会議、メセナフォーラム等

■Corporate of MECENAT Year 2014-15、国際会議とメセナフォーラムを連続で開催

- 協議会25周年記念事業として、10月23日に国際会議・東京セッションを実施。その導入プログラムとして、メセナ担当者をゲストに迎える「メセナフォーラム」を6～9月にわたり月1回の頻度で企画した。第2回は台風の影響により中止となったため全3回のフォーラムとなったが、レクチャー形式の第1回と第4回は出席率がよく、関心の高さがうかがえた(第1回「地域の伝統芸能と文化」:参加40名/申込50名、第4回「文化資本による経営」:参加55名/申込58名)。
- 第3回はフィールド視察として熊本、鹿児島を訪問。現地の文化を長年継承してきた企業メセナの現場を訪れ、熊本県の小野副知事から文化振興に対する考えを伺い、地元で活動するアートNPOの取り組みについて知ることができた。
- 国際会議・東京セッションは「文化は資本だー創造経済とは何か」をテーマに、国内外よりクリエイティブセクターとビジネスセクターで活躍する方々を招き、二部構成のパネルディスカッションと交

流会を行った。コミュニティに働きかけ、さまざまな社会課題にかかわるアートの力を確認し、社会と経済の基盤となる文化の価値、経済と文化のかかわりについて意見を交わした。

- 国際会議の翌日にはリトリート会議を行い、登壇者のほかに内外の中間支援組織やアート NPO の方々を招いて、プレゼンテーションと「文化振興プラットフォーム」実現のためのプレミーティングとして意見交換を行った。
- メセナフォーラムと国際会議の運営に関しては、交流部会より、登壇者や構成、タイトル等について提案いただくほか終了後にも意見をいただき、翌年 3 月に開催する大阪での国際会議に反映させることとしている。
- 当年より2015年度にわたる25周年記念事業の実施に際しては、以下の会員企業や公的機関からの支援を得ている。

【国際会議・東京セッション】

〔特別協力〕文化庁 〔助成〕国際交流基金 〔協力〕アジア・カルチュラル・カウンシル
 〔寄付・協賛〕朝日新聞社、アサヒビール、花王、サントリーホールディングス、資生堂、
 損害保険ジャパン日本興亜、大日本印刷、電通、トヨタ自動車、日本電気、
 ベネッセホールディングス

【メセナフォーラム】

第 1 回	地域の伝統芸能と文化
<p>企業が持つ技術とネットワークを活用し、地域の伝統・文化を支える活動として、キャノン「綴りプロジェクト」、東日本鉄道文化財団「地方文化事業支援」を紹介。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 日時:2014年6月12日(木)16:00~17:30 • 会場:株式会社博報堂 大会議室 • 講師:木村純子(キャノン株式会社 CSR 推進部部长) 山本典子(公益財団法人東日本鉄道文化財団 事業部担当課長) • モデレーター:荻原康子(公益社団法人企業メセナ協議会 事務局長) • 参加者:40名 	
	
第 3 回	熊本・鹿児島フィールド視察
<p>和歌の神髄を継承する「古今伝授之間」(熊本・お菓子の香梅)、薩摩の伝統美と心を表現した「薩摩伝承館」(鹿児島・指宿白水館)など、地元企業が地域固有の文化を伝える拠点を訪問。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 実施日:2014年8月28日(木)~30日(土) 訪問先:【熊本】熊本市現代美術館、お菓子の香梅「古今伝授之間」、ピーエスオランジュリ、ピュアリイ、器季家、小野副知事 【鹿児島】薩摩伝承館、マルヤガーデンズ、尚古集成館 • 参加者:11名 	
第 4 回	文化資本による経営
<p>文化資本の循環を支える重要な要素としてメセナを位置づける企業のメセナ担当者より、活動内容やさまざまなエピソードなどを紹介。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 日時:2014年9月11日(木) 16:00~17:30 • 会場:資生堂花椿ホール • 講師:樋口昌樹(株式会社資生堂 企業文化部グループリーダー) 岡部三知代(株式会社竹中工務店 ギャラリーエークウッド主任キュレーター) • モデレーター:古市憲寿(社会学者) • 参加者:55名 	
	

※ 第 2 回メセナフォーラムは「地域コミュニティ」をテーマに、熊谷眞一氏(公益財団法人弦地域文化支援財団代表理事/株式会社シベール特別顧問)、新町敦志氏(株式会社ふくや取締役)を招く予定だったが、台風により中止。

【国際会議・東京セッション】

国際会議	「文化は資本だ—創造経済とは何か」 クリエイティブリーダーとビジネスリーダーによる国際会議・東京セッション
<p>国内外からクリエイティブリーダーとビジネスリーダーをゲストに迎え、文化と経済のかかわりについて多角的に意見を交わす国際会議。幅広い社会課題に向き合うアートプロジェクトの可能性を探り、創造経済の根幹となる文化の価値を明らかにし、芸術・文化を通じた社会創造について議論を深めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日時:2014年10月23日(木)16:00~21:00 ※20:00~21:00 交流会 会場:電通ホール <p><u>16:10~17:50</u></p> <p>◎クリエイターズ・セッション「コミュニティ、そして世界を開くアート」</p> <ul style="list-style-type: none"> パネリスト: <ul style="list-style-type: none"> マリアナ・アルテアガ(キュレーター、芸術監督/メキシコ) マルコ・クスマウィジャヤ(都市研究ルジャックセンターディレクター/インドネシア) 久保田翠(NPO 法人クリエイティブサポート・レッツ理事長) 野村誠(作曲家、ピアニスト) 橋本裕介(ロームシアター京都/KYOTO EXPERIMENT プログラムディレクター) モデレーター:大澤寅雄(ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室 准主任研究員) <p><u>18:10~19:50</u></p> <p>◎パネルディスカッション「新たな経済と文化による社会創造」</p> <ul style="list-style-type: none"> パネリスト: <ul style="list-style-type: none"> イ・ビョン クォン(社団法人韓国メセナ協会 会長/韓国) 尾崎元規(企業メセナ協議会 理事長、花王株式会社 顧問) ウェンディ・オニール(アジア・カルチュラル・カウンシル理事長/アメリカ) 北川フラム(瀬戸内国際芸術祭/大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ総合ディレクター) モデレーター:加藤種男(企業メセナ協議会 専務理事) 参加者:142名 	
リトリート会議&文化振興プラットフォーム・プレミーティング	
<p>前半のリトリート会議では、前日の会議で示された視点や課題についてパネリストを交えて議論を深めた。後半のミーティングでは、文化機関やアートNPOの方々を招き、芸術・文化による社会創造を推進するためのプラットフォーム形成に必要な仕組みや共有すべきビジョンなど意見を交わした。</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施日:2014年10月24日(金)14:00~18:00 会場:国際交流基金さくらホール <p><u>14:00~15:30</u></p> <p>◎「文化は資本だ—創造経済とは何か」リトリート会議</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者:22名(国際会議登壇者、会員他) <p><u>16:00~18:00</u></p> <p>◎文化振興プラットフォーム・プレミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> プレゼンター: <ul style="list-style-type: none"> ジョアンナ・スオ(Culture & Media Agency Europe aisbl, Director of Development) イ・ビョン クォン(社団法人韓国メセナ協会 事務局長) 参加者:24名(国際会議登壇者、アートNPO 他) 	

■協議会ライブラリーでのミニフォーラム、たねカフェ開催

- ゲストとともに少人数で語り合うミニフォーラム。オランダ在住のアーティスト、向井山朋子さんを迎え、近年のオランダの文化政策や文化支援の状況についてうかがった。

ミニ・メセナフォーラム	オランダの文化政策の現状について
<ul style="list-style-type: none"> 日時:2014年12月24日(水)16:00~17:30 会場:企業メセナ協議会事務所ライブラリー 講師:向井山朋子(ピアニスト、美術家) 参加者:11名 	

- 加藤専務理事の主催による「タネ Cafe」を4回開催(2/7、3/13、5/22、7/17)。全国各地のアートプロジェクトや文化に関わる幅広いトピックスを中心に語り合うゆるやかな会合で、毎回、会員はじめ文化関係者が数名集い、情報交換と交流の場となった。

2) メセナネットワーキング

■会員相互の交流と、メセナの輪を広げる機会を設ける

- 年始の賀詞交歓会を、前年10月にオープンした資生堂花椿ホールで開催(1/24)。前半は「GBFund」報告会として、GBFundの実施報告とともに、岩手・福島から助成先の2団体をゲストに迎え、活動内容について伺い、現状の課題と今後の展開について意見を交わした。
- 総会にあわせて特別講演会を開催(3/3)。アートディレクターの北川フラム氏を講師に迎え、「大地の芸術祭」「瀬戸内国際芸術祭」などの実践に基づき、地域でアートフェスティバルを展開する意義と、企業メセナに対する期待などについて講演いただいた。
- 会員ネットワーキンググループ幹事の企画で、「新入会員ファーストミーティング」を行い(6/18)、5社、7名の新会員が参加した。各社のメセナ活動についてプレゼンテーションを行う他、協議会の事業概要等を案内し、会員ネットワーキンググループのメンバーと交流した。
- 例年秋に実施している会員交流会では、メセナアワード2013で「対話でアート賞」受賞の損害保険ジャパン/損保ジャパン美術財団と、「光る町なみ賞」受賞の村上町屋商人会の代表をお招きし、それぞれの活動をプレゼンテーションいただき質疑応答の機会を設けた。協議会役員も参加し、会員相互に懇親する場となった(9/30)。
- 昨年、会員ネットワーキンググループ有志により発足した「メセナ美術部」では、2回の視察を実施(7/18、12/4-5)。幹事からの企画提案で、初めて関西で2日にわたる活動を行うことができた。また会員に限らず、美術館やギャラリーなどの施設を運営する企業のメセナ担当者が集うことで、幅広いネットワーク形成の機会となった。
- 現場視察とレクチャーで構成される会員ネットワーク勉強会は、日本橋エリアのまちづくりに注力する三井不動産を訪ね、三井記念美術館の展覧会鑑賞と、11月に再建された福德神社を案内いただいた。日本橋の歴史やコミュニティに立脚するまちづくりのあり方を伺った。

【賀詞交歓会・「GBFund 報告会」】

1月24日(金) 14:00~17:30 資生堂 花椿ホール	◎「GBFund」報告会 14:00~15:15 ・ゲスト: 川向真吾、松下 勝(平田青虎会) 山岸清之進(プロジェクト FUKUSHIMA!) 吉本光宏(GBFund 選考委員、[株]ニッセイ基礎研究所 社会研究部 主席研究員・芸術文化プロジェクト室長) ・モデレーター:寺岡美智子(企業メセナ協議会プログラム・オフィサー) ・参加者:111名 ◎賀詞交歓会 15:30~17:30 ・参加者:122名
---	---

【特別講演会】

3月3日(月) 15:00~15:40 学士会館 202	「アートから見る企業メセナと社会」 ・講師:北川フラム(アートディレクター) ・参加者:57名
------------------------------------	---

【新入会員ファーストミーティング】 ※会員ネットワーキンググループ主催

6月18日(水) 15:30～19:00 協議会事務所	<ul style="list-style-type: none"> 参加者(新入会員): 森岡茂夫(新菱冷熱工業)、原 浩之・日高正人・内倉真紀子(白寿生科学研究所) 吉田達朗(東日本電信電話)・臼倉利人(NTT インターコミュニケーション・センター) 野口有紀(ブルームバーグ・エル・ピー)
-----------------------------------	--

【会員交流会】

9月30日(火) 15:00～18:00 NEC 芝倶楽部	<ul style="list-style-type: none"> 講師: 塙 昌樹(損害保険ジャパン日本興亜株式会社 取締役常務執行役員) 吉川真嗣(味匠喜っ川 専務取締役/村上町屋商人会 会長) 参加者:25名
-------------------------------------	--

【メセナ美術部】 ※会員ネットワーキンググループ主催

7月18日(金) 16:00～18:00	<p>第3回メセナ美術部 印刷博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> レクチャー:宗村 泉(凸版印刷株式会社 印刷博物館 学芸企画室長) 参加者:20名
12月5日(金) 11:00～20:00 12月6日(土) 9:45～15:30	<p>第4回メセナ美術部 錦秋の京都・大山崎に藤井厚二「聴竹居」を訪ねて</p> <ul style="list-style-type: none"> 訪問先: 【大山崎】離宮八幡、千里休国宝「待庵」、聴竹居、アサヒビール大山崎山荘美術館 【京都市】大雲院「祇園閣」、京都国立博物館・平成知新館、虎屋菓寮京都一条店 参加者:12月5日・25名、12月6日・17名 協力:株式会社竹中工務店/公益財団法人ギャラリーエックワッド

【会員ネットワーク勉強会】 ※会員ネットワーキンググループ主催

12月17日(水) 13:00～15:00	<p>福德神社、三井記念美術館「雪と月と花～国宝《雪松図》と四季の草花～」</p> <ul style="list-style-type: none"> 訪問先:三井不動産株式会社 レクチャー: 新原昇平(三井不動産株式会社 日本橋街づくり推進部長) 清水 実(三井記念美術館 学芸部長) 参加者:25名
--------------------------	--

3) 地域メセナ交流・推進

■各地の企業メセナを発信、文化政策の振興に寄与

- 地域における企業を中心とした文化振興の推進とメセナ活動の顕在化のため、協議会では折に触れ、さまざまな提案や協働に取り組んできた。加藤専務理事および事務局職員が各地の企業や文化団体等から招聘される機会を活かし、メセナに関する情報提供と交流に努めている。
- 沖縄タイムス社主催の「メセナセミナー」への出演や、名古屋の損害保険ジャパン日本興亜ひまわりホール活性化委員を務めるほか、自治体の文化政策に関する委員会等への参加も多く、民間の文化振興の観点から意見を述べている。(沖縄、鳥取、静岡、浜松、横浜、埼玉ほか)
- 協議会の関西拠点である関西・大阪 21世紀協会にて、メセナ関連の相談を受ける「メセナよろず相談日」を数回実施(5/25・26、8/26、9/26・27、12/7・8)。名古屋・京都・大阪・神戸を中心に、文化団体からの相談を受けるほか、会員企業をはじめメセナに取り組む企業を訪問した。
- メセナフォーラムでの熊本・鹿児島視察やメセナ美術部で京都を訪れるなど、文化による地域振興やメセナの取り組みを紹介し、地域文化の豊かさを実体験する機会を設けた。
- 「メセナアワード」受賞活動や「GBFund」助成決定のプレスリリース等の発行に際し、該当する地域のメディアに働きかける試みも行った。また事務局職員が各地の企業メセナの施設や催しを訪れた際には、Facebook でレポートするなど、積極的な情報発信に努めた。

4) 国際交流

■国際会議等を通じたネットワーク強化

- 協議会設立 25 周年記念事業として、国際会議を企画。東京セッション(10/23)と連続メセナフォーラム、大阪会議(2015/3/7-8)等から構成され、国内外の文化機関や文化関係者、企業トップらを交え、「創造経済」を主なテーマとして議論を展開している。
- 東京セッションでは、韓国メセナ協会事務局長のイ・ビョン クウォン氏、アジア・カルチュラル・カウンシル理事長のウエンディ・オニール氏はじめ内外の文化機関より出演者を迎えた。本会議を機にあらためて海外のメセナ組織との連絡、協力がはかられることとなった。
- 国際交流基金クアラルンプールの招聘により、クアラルンプール(マレーシア)で開催されたボラ・アート・シリーズ(Borak Art Series)のカンファレンスに加藤専務理事と荻原事務局長が出演、日本のメセナの現状についてプレゼンテーションを行った(11/22-23)。あわせて現地でメセナ活動に取り組むペトロナス社、サイム・ダービー財団を訪れて情報交換を行い、会議の主催者である中間支援組織 MyPPA に対するコンサルテーションを行った。これを機に、翌年 3 月の大阪国際会議にゲストとして招くことにつながった。
- コーディネート事業として受託した「文化の力・東京会議 2014」「招聘プログラム」の運営を通じ、海外の文化機関やアートマネジャー等とのネットワークが形成された。あわせて、国際会議運営のスキルを高めることができた。

■積極的な情報発信と関係構築

- WEB の英語ページや英訳資料の充実、多言語による情報発信に努め、国際会議や調査事業等で海外文化機関に働きかけた結果、国際交流が著しく活性化した。韓国メセナ協会からは、同会の顕彰事業の贈呈式で高嶋会長からの祝辞を求められ、ビデオ・メッセージを送った。またフランスのメセナ機関アドミカルや、オーストラリアを本部とする国際文化情報機関IFACCAのWEBやメールニュース、Twitterなどで日本の企業メセナと協議会の活動が紹介された。
- 英国ブリティッシュ・カウンシル理事長のバーノン・エリス氏の来日や(10/16)、カルチャー・リーダーシップの人材育成プログラムを手掛けるスー・ホイル氏の来日に際して(11/18)、会員を交えた懇談の機会を設け、オリンピック文化プログラムを中心として意見を交わしている。
- 都内に所在する大使館や文化関係機関を訪問。オランダ大使館、イタリア文化会館、フィンランドセンター、スイス大使館、アンティチュ・フランセ東京のほか、程中国大使にも面会が叶った。また 4 月には加藤専務理事が韓国メセナ協会を訪問、国際会議のゲスト招聘につながった。
- ベルギーより Culture & Media Agency Europe aisbl のジョアンナ・スオ氏、仏ナント市よりリュ・ユニック・ディレクターのパトリック・ギゲール氏が、日本のメセナの現状について情報収集のため来局し、今後のネットワーク構築に向けて意見を交わした。

1-6. コーディネート、協力

■芸術文化振興の専門機関として幅広い相談・協力に対応

- 企業メセナの専門機関として、協議会に蓄積された情報や知見を活かし、芸術文化振興に関わる幅広い相談に応じる他、具体的なメセナプログラムの開発や協力、コーディネート事業を展開。企業間および企業と他のセクターをつなぐ役割を担っている。

- 2013年に引き続き、「文化の力・東京会議 2014」の運營業務を受託。あわせて東京都歴史文化財団のネットワーク事業である「招聘プログラム」の運営を受託した。東京会議ではベルリン、ロンドン、ソウル各都市の文化行政やアートフェスティバルに携わる第一人者を招き、招聘プログラムでは各国の若手アートディレクターらを招いた。
- 東京会議および招聘プログラムでは、意見交換の場に協議会役員らが参加し、視察先として会員企業・団体(アサヒビール、トヨタ自動車、セゾン文化財団、ニッセイ基礎研究所ほか)が対象となり意見交換を行うなど、協議会としても海外とのネットワーク形成に資する機会となった。
- 例年継続しているコーディネート事業では、「ネットTAM」のリニューアルオープン(トヨタ)や「すみだ川アートプロジェクト」のアンサンブルズ・パレードなど(アサヒ)、新たな展開を迎えた場面が多く、関係者相互の密なコミュニケーションにより運営を進めることができた。トリトン・アーツ・ネットワーク(第一生命)やひまわりホール(損保ジャパン日本興亜)はじめ、メセナプログラムの企画協力(ブルームバーグ)や事業評価、会議やシンポジウム参加などの依頼にも応じている。
- 「2021 Arts Fund」を設けたことから、同ファンドを活かしたメセナプログラムを企業に提案するほか、さまざまな文化事業の主催者からの相談を受けている。幾つかの事業は「2021 Arts Fund」の枠組みで寄付金授受や情報発信に対する協力を進めている。
- 企業メセナおよび芸術文化振興に関する専門機関として、幅広いセクターからの相談や協力依頼に積極的に対応している。文化団体やアートNPOからは事業推進に関する相談、教育機関からはメセナについての講演依頼、行政からは文化政策に対する意見や文化施策の評価、文化事業の受託の選考に関する依頼が多い。
- 2020年東京オリンピック・パラリンピックを見据えて、企業メセナおよび民間のネットワークによる文化振興についての相談やヒアリングが増加した。また会員企業からの提案により、会員有志からなる研究会の準備会を11月に発足させ、事務局の一端を担っている。

【主なコーディネート事業】

トヨタ自動車	「トヨタ・アートマネジメント」プログラムの運営
	<p>アートマネジメント総合情報サイト「ネット TAM」(www.nettam.jp)の企画・運営、月例更新(コンテンツ制作)、SNSによる広報。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 10周年を迎えたネット TAM 全面リニューアル(10/1) • 更新内容:メルマガ配信(毎月1日・15日)、リレーコラム(毎月1日公開)、取材、新コンテンツ立ち上げ • 1日のアクセス:平均1万6757 ページビュー(PV) • 月間アクセス:平均51万PV • 累計アクセス:約2,780万PV 
アサヒグループ芸術文化財団	すみだ川アートプロジェクト 2014「江戸を遊ぶ—江戸の食」
	<p>2089年まで80年間続くSRAPの5年目。夏のメイン期間をはじめ年間を通じて、多彩なアーティストや市民が集う催しを展開。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 主催:すみだ川アートプロジェクト実行委員会、アサヒグループ芸術文化財団 • 共催:アサヒ・アートスクエア、墨田区、AAF ネットワーク実行委員会 • 特別協賛:アサヒビール • 企画協力:企業メセナ協議会 • 協力:アートNPOリンク、トッピングイーストほくさい音楽博、ものコト市実行委員会

◎「Oh! Hanami pARTy」SRAP 式お花見パーティー

- 日時:2014年4月6日(日)18:00~21:00
- 会場:アサヒ・アートスクエア
- ゲスト:山田順子(時代考証家)、
望月太左衛門一門(邦楽囃子方)、
EAT&ART TARO(アーティスト)
- 参加者:60名



◎「江戸を遊ぶ—江戸の食」

- 会期:2014年6月14日(土)~7月31日(木)
- 会場:アサヒ・アートスクエア、アサヒグループ本社ロビー&周辺広場、牛嶋神社他
- 来場者:2,914名、アンサンブルズ・パレード:約700名

◎「アンサンブルズ餅つき」SRAP 式正月の準備

- 日時:2014年12月24日(水)17:00開場、19:00~21:00
- 会場:アサヒ・アートスクエア
- ゲスト:大友良英(音楽家)、EAT&ART TARO(アーティスト)
- 参加者:70名

東京都、東京文化発信プロジェクト室(東京都歴史文化財団)

東京・ベルリン友好都市提携20周年記念

文化の力・東京会議2014「文化創造都市とフェスティバル」

東京・ベルリン友好都市提携20周年を記念し、「文化創造都市とフェスティバル」をテーマとした国際会議を実施。翌日には本会議の議論をふまえて国際会議の登壇者及び主催関係者のみで「文化創造都市とフェスティバル」について総括。都市における国際フェスティバル開催の意義や役割について議論が掘り下げられるとともに、オリンピックを機とする文化プログラムについても様々な提案と意見が交わされた。

- 主催:東京都、東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)
- 共催:ベルリン市、アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)
- 協力:東京ドイツ文化センター、ブリティッシュ・カウンシル、韓国文化院
- 運営:公益社団法人企業メセナ協議会

◎文化の力・東京会議2014「文化創造都市とフェスティバル」本会議

- 日時:2014年11月7日(金)16:00~19:45
- 会場:都庁都民ホール

【基調講演】16:10~17:50

トーマス・オーバーエンダー(ベルリン芸術祭総裁)
逢坂恵理子(横浜美術館館長)

【パネルディスカッション】18:00~19:45

トーマス・オーバーエンダー(ベルリン芸術祭総裁)
逢坂恵理子(横浜美術館館長)

ルイーザ・ジェフリーズ(バービカン・センター アーツ部門ディレクター/ロンドン)

イム・ミへ(ソウル芸術文化財団 芸術教育チーム長)

橋本裕介(ロームシアター京都/KYOTO EXPERIMENT プログラムディレクター)

コンラート・シュミット=ヴェルテルン(ベルリン市文化部長)

三好勝則(アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)機構長)

モデレーター:片山正夫(公益財団法人セゾン文化財団常務理事、東京芸術文化評議会専門委員)

- 参加者:103名

◎文化の力・東京会議2014「文化創造都市とフェスティバル」事後会議

- 日時:2014年11月8日(土)13:00~14:30

- 会場:ブリティッシュ・カウンシル

- 参加者:19名(本会議登壇者 ※逢坂氏欠席)、東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団(東京文化発信プロジェクト室、アーツカウンシル東京、東京芸術劇場)、ブリティッシュ・カウンシル、国際招聘プログラム参加者)

東京都、東京文化発信プロジェクト室(東京都歴史文化財団)

国際招聘プログラム

主催:東京都、東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)

運営:公益社団法人企業メセナ協議会

◎東京都プレゼンテーション

- 実施日:2014年11月7日(金)10:00~11:30
- 会場:都庁第一本庁舎 25階 115会議室
- 参加者:13名

◎国際招聘プログラム 意見交換会&プレゼンテーション

- 実施日:2014年11月8日(土)15:00~18:00
- 会場:ブリティッシュ・カウンシル B2F 大会議室
- プレゼンター:
 - マグダレーナ・アルペ(南米美術館文学プログラム・アーツマネージャー/ブエノスアイレス)
 - ヘルマン・バシロン・メンドリッキオ(文化とモビリティ研究、美術批評/バルセロナ)
 - アマル・イッサ(ホーム・ワークスペース・プログラム HWP ディレクター/バイルート)
 - トビ・ミュラー(ジャーナリスト、ポップミュージック及び演劇/ベルリン)
 - ジェイク・オールロフ(劇作家・俳優・演出家/コロンボ)
- 参加者:41名

◎視察

- 実施日:2014年11月8日(土)~14日(金)
- 【訪問・面談先】東京都現代美術館、東京芸術劇場、ニッセイ基礎研究所、トヨタ自動車、国立劇場、東京芸術劇場、セゾン文化財団・森下スタジオ、江戸東京博物館、アサヒビール、東京フィルメックス、3331 Arts Chiyoda
- 参加者:招聘者、国際会議登壇者

◎フィードバック

- 実施日:2014年11月14日(土)15:30~17:00
- 会場:3331 Arts Chiyoda
- 参加者:12名(招聘者、国際会議登壇者、東京都、東京文化発信プロジェクト室)

【協力対応状況】

■委員・役員

※依頼元五十音順

依頼元	内容(期間・開催日)
京都文化ベンチャーコンペティション実行委員会	「第8回京都文化ベンチャーコンペティション」審査委員 (2014年6月9日~) ※2012年より継続
東京都生活文化局	東京都江戸東京博物館外5施設指定管理者評価委員会委員 (2014年8月8日、委員会開催)
国際交流基金	2014年度「国際交流基金地球市民賞」選考委員 (2014年7月31日~2015年3月31日)
埼玉県	埼玉県文化活動サポート団体助成事業審査委員会 (2013年5月1日~2014年3月31日) ※2012年より継続
静岡県	静岡県文化政策審議会委員 (2012年5月23日~2014年5月22日) ※2012年より継続
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	ひまわりホール活性化委員会委員 (2014年8月1日~2015年3月31日)
認定特定非営利活動法人 トリトン・アーツ・ネットワーク	トリトン・アーツ・ネットワーク第5期評価委員会 (2014年4月~2016年3月)
鳥取教育委員会	鳥取県教育審議会委員 (2014年10月1日~2016年9月30日)
文化芸術による復興推進コンソーシアム事務局	文化芸術による復興推進コンソーシアム運営委員 (2014年6月1日~2016年5月31日) ※2012年より継続

文化芸術による復興推進 コンソーシアム事務局	文化芸術による復興推進委員 (2013年9月6日～2014年3月31日) ※2012年より継続
文化庁	平成25年度「文化庁文化交流使事業」運営実施業務企画選定委員会委員 (2013年5月9日～2014年3月31日) ※2012年より継続
文化庁	文化芸術の海外発信拠点形成事業協力者会議委員【審査】 (2014年7月20日～2015年3月31日) ※2012年より継続
文化庁	文化芸術の海外発信拠点形成事業協力者会議委員【採択事業に係る評価】 (2014年1月8日～2015年3月31日)
文化庁	「地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ」事業審査委員 (2014年1月10日～2014年11月30日)
文化庁	「文化芸術グローバル化推進事業」事業審査委員 (2014年1月8日～2015年3月31日)
文化庁	「FACP2014 日本会議 in 川崎」開催業務企画選定委員会委員 (2014年5月1日～2015年3月31日)
文化庁	「優れた現代美術の海外発信促進事業(国際発信力のある国際企画展)」 協力者会議委員(2014年5月19日～2016年3月31日)
文化庁	「国民文化祭の在り方に関する検討会」委員 (2014年6月1日～2015年3月31日)
文化庁	社会課題の解決に貢献する文化芸術活動の事例に関する調査研究事業審査委員(2014年10月1日～)
横浜市	「横浜市広報企画審議会」委員 (2014年4月～2014年3月)

■講義・出演

依頼元	内容(期間・開催日)
いわてアートサポートセンター	いわて文化支援ネットワーク 研修会&フォーラム (2014年3月14日)
株式会社沖縄タイムス社	タイムス・メセナセミナー「企業の文化支援の新しいカタチ」 (2014年1月17日)
公益財団法人 浜松市文化振興財団	主催者育成セミナー (2014年10月11日)
損害保険ジャパン日本興亜 株式会社	ひまわりホール 25周年記念シンポジウム (2014年9月26日)
国際交流基金 クアラルンプール	ボラ・アート・シリーズ(Borak Art Series)-クリエイティブ・プラクティショナーと ビジネスリーダーのためのアートコンフェレンス(2014年11月22日～23日)
暮らしとアートとコノサキ計画 実行委員会	25年度 暮らしとアートとコノサキ計画 成果発表会 (2014年2月7日～9日)
日本大学 芸術学部演劇学科	芸術総合講座「メセナの現状と企業へのアプローチ」 (2014年10月10日)
宮城県	「文化遺産とひと、まち、復興」宮城大会第2部 (2014年2月11日)

■後援

依頼元	内容(期間・開催日)
ACC50 周年記念チャリティー 事業実行委員会	アジア・アルチュラル・カウンスル 50周年記念 チャリティーガラディナー&オークション (2014年10月24日)
一般社団法人 全日本ピアノ指導者協会	ピティナ・学校クラスコンサート (2014年6月～2015年3月)
企業文化交流委員会	第20回特別記念展秘蔵の名品アートコレクション展「日本の美を極める—近代 絵画が彩る四季・花鳥・風情」(2014年8月8日～8月31日)
バリ金谷インターナショナル アートウィーク実行委員会	バリ金谷インターナショナルアートウィーク実行委員会 (2014年10月8日～13日)
認定特定非営利活動法人 日本NPOセンター	市民セクター全国会議 2014 (2014年11月21日～22日)

公 2: 芸術・文化活動等への寄付を促す助成に関する事業

2-1. 助成認定制度

■制度の改定とオンラインシステム化を推進

- 昨年より検討を重ねてきた助成認定制度のあり方について、課題とされていた以下の点を中心に具体的な改定と新たな制度設計を行った。
 - ① 規模の大きな活動を継続する任意団体には公益法人化・認定 NPO 化を勧める
⇒助成認定制度が対象とする活動について、事業費 3,000 万円、寄付金額 1,000 万円の上限を設定。それを上回る規模の活動を継続している団体には、公益法人化や認定 NPO 化を勧めるとともに、臨時組織の場合は新設の「2021 Arts Fund」の対象として検討する。
 - ② 個別の寄付コーディネート検討
⇒目的を特化した寄付の運営を行えるよう、新たなファンド「2021 Arts Fund」を設けるとともに、助成事業のマッチング機能を高めるべく、WEB を中心とする情報発信を強化する。
- 申請と寄付金授受に関する作業を効率化し、より幅広い寄付者への呼びかけを促すべく、一連の手続きをオンライン化。本助成制度の利用者は「メセナフレンズ」として WEB 登録したうえで、活動申請、寄付申込みができる仕組みを開発した(5/26 可動・12/31 登録数:986 件)。今後は認定・採択活動に関するリアルタイムな情報発信と寄付マッチング機能の強化をめざす。
- 2014 年度は 4 回の審査委員会を実施。申請・認定件数は前年度より微減、寄付件数、寄付金額とも 2012 年度並みとなっているが、これは制度改定も一因であり、新設の「2021 Arts Fund」で扱う案件があることも影響している。
- 助成認定審査会の委員として長年ご尽力いただいていた渡辺裕氏(東京大学教授)、貫成人氏(専修大学教授)が任期満了等の事由により退任。2015 年度からは、音楽、舞踊の分野に新たな委員を迎えることになる。

【2014 度の認定件数】

	実施日	認定件数	申請件数
第 1 回審査委員会	3 月 4 日	24 件	26 件
第 2 回審査委員会	6 月 16 日	35 件	43 件
第 3 回審査委員会	9 月 24 日	24 件	28 件
第 4 回審査委員会	12 月 4 日	10 件	13 件
	合 計	93 件	110 件

※ 2013 度:認定件数 94 件、申請件数 113 件／2012 年度:認定件数 129 件、申請件数 153 件

【寄付件数と寄付金額】

年 度	寄付件数	寄付金額	平均寄付金額／件
2014 年度	1,060 件	3 億 6,755 万円	34.6 万円
2013 年度	1,353 件	5 億 5,945 万円	41.3 万円
2012 年度	1,107 件	3 億 4,223 万円	30.9 万円

2-2. 震災復興支援事業

「東日本大震災 芸術文化による復興支援ファンド」(GBFund)

■継続的な支援要請と情報収集

- 本年度は2回のGBFund選考会を行い、28件を助成活動として採択した。前年度まで毎回の申請数は100件を超えていたが、第11回の選考会では申請件数が著しく減少した。内容としては単発の活動が減り、震災後に始まった活動が国際的な展開を見せるものや、神戸や東京の団体が継続的な支援と交流、情報発信を行うなど、安定した活動を続ける団体からの申請があった。
- 「百祭復興プロジェクト」では、2012年よりニューヨークの日米交流団体ジャパン・ソサエティー「Japan Earthquake Relief Fund」から支援を受けているが、当初予定の2年間(25万ドル)に続き、2014年度も支援を得、被災地の祭りや郷土芸能の復興に充てることができた。
- 賀詞交歓会にあわせて「GBFund 報告会」を開催し(1/24)、助成先団体を交えて情報交換を行うほか、文化芸術による復興推進コンソーシアムに継続して参加するほか、岩手や宮城で行われたシンポジウム等でGBFundについて紹介するなど、関連団体との情報交換に努めた。

【GBFund 選考委員】

- 片山正夫 (セゾン文化財団常務理事)
加藤種男 (企業メセナ協議会専務理事)
俵木 悟 (成城大学文芸学部文化史学科准教授)
船曳建夫 (文化人類学者)
吉本光宏 (ニッセイ基礎研究所研究理事)

東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド



【寄付総額・助成状況】

- [ファンド目標額] 200,000,000 円
[寄付総額] 1億3,662万59円 (2014/12/31 現在の着金済)
[助成総額] 1億2,376万346円 (2014/12/31 現在、寄付先指定寄付を含む)
[助成活動件数] 224件

【2014年度の助成件数と助成金額】

GBFund 選考会開催日	申請数	採択(助成)数	助成総額
第10回選考(2014/5/19)	91件	16件	538万円
第11回選考(2014/11/17)	32件	12件	426万円
合計	123件	28件	964万円

※2013年度(第8回・第9回):申請数274件、採択数43件、助成総額1,499万115円

※2012年度(第6回・第7回):申請数337件、採択数65件、助成総額2,612万913円

2-3. 「2021 芸術・文化による社会創造ファンド」

■未来への文化投資を促す目的ファンド

- 助成事業の充実をはかるべく、新たに「2021 芸術・文化による社会創造ファンド」(通称:2021 Arts Fund)を設立(6/4)。従来の助成認定制度、GBFund に加え、より幅広く、芸術・文化による社会創造を推進するためのファンドとして広く寄付を募るとともに、寄付者の意志に応じた助成プログラムのコーディネートを目指す。
- 当ファンドの重点対象は、①地域文化振興および芸術・文化による地域創造、②芸術・文化を通じた国際交流および日本文化の国際発信、③芸術・文化およびこれを通じた社会創造を担う人材育成、④その他、芸術・文化振興に資する活動とし、目的を特化した寄付を受け入れる。
- 名称の「2021 芸術・文化による社会創造ファンド」は、2020 年東京オリンピック・パラリンピックに因み、日本各地の多様な文化を発信し、2020 年以降の未来の文化の創造につながるような活動を支援するという趣旨による。
- 助成認定制度の改定と関連して、規模の大きな活動については当ファンドの対象として検討することとし、既存の助成認定審査委員会に、あらためて2021 Arts Fund 選考を委嘱、重点支援対象に沿った選考基準を設けた。
- 当ファンドの運営に際しては、寄付金の10%を上限とする事務局経費を申し受け、各プロジェクトの情報発信と寄付募集、運営を担うこととする。

【2021 Arts Fund 採択活動】

第1回選考委員会(9/24)
<ul style="list-style-type: none"> • ラ・フォル・ジュルネ金沢「熱狂の日」音楽祭 2015 • KYOTOGRAPHIE 国際写真フェスティバル • 南蛮屏風下張り文書修復プロジェクト • アニメーション映画「氷川丸ものがたり」製作 • フェスティバル/トーキョー14
第2回選考委員会(12/4)
<ul style="list-style-type: none"> • 首都オペラ 第24回公演「トゥーランドット」 • 第4回高松国際ピアノコンクール • 東京・春・音楽祭—東京オペラの森 2015— • 早稲田大学交響楽団 <p style="text-align: center;">第14回海外公演「ヨーロッパツアー2015」</p>



芸術・文化による社会創造ファンド
企業メセナ協議会

【寄付総額・助成状況】

[寄付総額]	3,922 万 1,971 円 (2014/12/31 現在)
[寄付件数]	51 件
[助成総額]	955 万 8,200 円 (2014/12/31 現在)

以上